

第4回 事務局会議事録

日 時：2006年11月7日（火） 10:00～12:30

場 所：学会センタービル 会議室（B1）

出席者：村山会長、河端広報担当理事、今井総務担当理事、落合会報担当理事、
佐藤広報委員（正木委員長代理）、太田 GIS 技術資格認定局副局長、福井事務局長
ゲスト：大沢大会実行委員長

【議 題】

日韓共同 GIS セミナー補助金の決済
科研費（国際シンポジウム）の申請について
学術会議からの要請（イノベーション 25）について
第 15 回学術研究発表大会報告
GIS 技術資格認定局報告
ニューズレター60号について
広報関連
基本法提言委員会について
GIS 専門家協会準備会について
次回事務局会日程など

【 日韓共同 GIS セミナー補助金の決済】

村山会長より、補助金の決済について報告があった。文科省からの補助金は 135 万円であるが、支出は 1, 213, 487 円であり、剰余金が生じた。これは日本大学文理学部の厚意により会場費が無料になったためである。

【 科研費（国際シンポジウム）の申請について】

来年度学会初日の国際シンポジウムへの科研費申請（平成 19 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公開発表(C)」計画調書）について、承認された。「名称は『東アジア GIS 国際シンポジウム』とする。」（書類提出後の変更不可）
「基調講演は日本・韓国・中国に台湾を加えた 4 カ国各々『東アジアにおける GIS 研究の現状と将来、連携のあり方』とし、パネルディスカッションも検討する。」（変更可能）
「一般発表は 基礎理論 都市・地域解析 普及と活用（含：教育） 応用（防災、環境研究、行政支援等）とする。」（変更可能）
「外国人演者として 5～6 人程度を招聘することを考えている。」

【 学術会議からの要請（イノベーション 25）について】

数名の理事より、ご意見が寄せられている。

「提案は、長期を見据え、理想論でも可。」

「GISA ならではのインパクトのある意見が重要である。」

「アジア諸国との連携、人材育成、また必ずしも精度が高い必要はないが社会的インフラ（プラットフォーム）の整備が重要である。」

「 個人中心、個人参加型であること、 自律分散型であること、 データは非集計であること、 公共財として継続性の保障が必要であること、 が重要である。」

提案事例は村山会長が作成することとなった。

【 第 15 回学術研究発表大会報告】

大会論文受付時のアンケート集計が大沢大会実行委員長より報告された。また事務局より現在までの講演論文集、CD-R 売上状況の報告があり、当面は双方の媒体を作成することとなった。

「学会として不可欠なものとして学術研究発表大会を継続的に開催するならば、次の 2 点の整備強化が必要と思われる。

委員会構成（委員はメール等の連絡がつき、会議にも出来得る限り出席可能であること）

大会本部（会場校）・学会賞・会報・渉外・事務局など、大会に係わる部署との連携強化・役割分担の明確化が必要であり、そのための会議」

「理事の役割分担が不明確であるということは問題意識として持たないといけない。」

大沢大会実行委員長がまとめ役であることが確認・承認され、大会実行委員長も事務局会の基本メンバーとなることが決定された。

【 GIS 技術資格認定局報告】

太田 GIS 技術資格認定局副局長より、学会連携の状況、大会に於けるパネルディスカッション、教育主催者および GIS 専門技術者認定の現況について報告があった。また、今月末に賛助団体を対象とする説明会を開催する旨、案内があった。

「審査をする人材不足が問題点のひとつ。現在、有資格者の中から選定し、プライバシーに配慮しつつ、審査を依頼することを考えている。」

「地理学会でも GIS 技術資格を検討しているので、連携学会との関連も含め、今後のことを考える必要がある。」

【 ニュースレター60号について】

落合会報担当理事より、12月中旬発行のニュースレター60号の原稿収集状況等の報告がなされた。

「惑星連合大会での論文発表募集については、重要な案件なのでニュースレターで宣伝に努める。レギュラーセッションなので、30以上の発表者は欲しい。」

【 広報関連】

河端広報担当理事および佐藤広報委員より、10月16日開催の広報委員会の報告および提案があった。

ホームページについて

「現況では学会内外からの催事・求人等の更新が随時となっているが、原則として事務局とりまとめを2週間に1回にし、その1週間以内の更新としたい。」

フォーマットが承認された。(11/7 アップ)

「HP更新の一部外注化を検討したい。」

来年度の予算作成時に検討することとした。

「機関紙情報充実化のため、デジタル原稿の収集・整理・管理を図る」

著作権の問題、デジタルライブラリーの閲覧権限や運営上の問題などクリアすべきことも多いので、アブストラクトからだけでも検討すると良いのではないか。

「過去の大会ページを保存する」

会員数増大に向けて

「オンライン入会・変更フォームを作成する」

既に雛形が出来ており、紙ベースの申込書とのすり合わせ等始める。

「会員紹介のメリットを設けてはどうか」

原案を作成後、IT理事会にかけることとした。

「学会賞の充実化、また終身会員を検討してはどうか。」

前者については学会賞委員会の検討課題。後者については原案作成後、IT理事会にかけることとした。

「講演者の紹介などの要望が地方に多い。全国のイベントに協力したい。」

「HP上だけでなく、大会会場での賛助会員や大学等の求人情報の公開を認めてはどうか」

可能。但し、会場校によっては大学の情報は断られるかもしれない。(11/7 アップ)

「後援イベントに事務局からポスターや入会案内書を送ってはどうか。」

入会案内については既にしているが、現在ポスターが無い。作成することとした。

「SIG 活動広報用に容量を割いてはどうか。」

今井総務担当理事が各 SIG に希望をとることとなった。

【 基本法提言委員会(委員長：柴崎亮介)について】

委員会のメンバーに、村山会長・今井総務・太田 GIS 技術資格認定局副局長・福井事務局長を含める。

GIS 教育に関する提言案(碓井理事提案)を検討し、全員一致でこの案を了承した。

【 GIS 専門家協会準備会について】

今井理事を中心に進めることとし、コアメンバーとして村山会長・岡部理事・高阪理事・落合理事を含めることにした。

【 次回事務局会日程など】

2007 年 1 月 5 日(金) 15:00～ 於学会センタービル B1 会議室

〔 継続審議事項 〕

- ・ NPO 法人の会員資格について
- ・ GIS 用語委員会について
- ・ Reviewed Dataset について

〔 他、予定される議案 〕

- ・ 来年度予算案について

これまでの事務局会メンバーに、恒常的に小口渉外委員長と大沢大会実行委員長の参加を要請する。

予算案作成につき、各委員長にも事務局会出席の案内をする。

以上